

『五つの落とし穴』 ～ 隙間を埋める学びの体験 ～

2025年7月26日午前は、早稲田大学エクステンションセンター(早稲田校)での講座【『がんと生きる哲学』：『ジャンル 人間の探求：テキスト：樋野興夫著『新渡戸稲造(1862-1933)壁を破る言葉：逆境に立ち向かう者へ40のメッセージ』（三笠書房）】(10:40～12:10)に赴いた。

今回は、1章【逆境にどう立ち向かうか】の9節『自分をとことん信じる ～「あなたが天に失望しても、天はあなたを見捨てない」～』、10節『順境のときこそ自分を戒める ～ 順境にいるときの「五つの落とし穴」～』、11節『人生はいばらの道、されど宴会 ～ 不平不満を「よろこびのタネ」に変える ～』を受講者に音読してもらい 質問を受けながら進めた。大変有意義な時であった。

『五つの落とし穴』

1. 順境にある人は傲慢になりやすい
2. 順境にある人は怠けやすい
3. 順境にある人は恩を忘れやすい
4. 順境に慣れてしまうと不平不満が多くなる
5. 順境に慣れてしまうと調子に乗りやすい

午後は、2012年からスタートされた『お茶の水メディカル・カフェ in OCC (お茶の水クリスチャン・センター)』(13:00～)に向かった。筆者は、別室で、4組(7人)の個人面談の時間が与えられた。『お茶の水(OCC)メディカル・カフェ』は、東日本大震災の2011年に創設準備がなされ、2012年に当時OCC副理事長であった今は亡き榊原寛先生が始められた。榊原寛先生は79歳でご逝去された(2020年12月24日)。筆者は、2012年5月26日(土)にOCCでの第1回『お茶の水(OCC)メディカル・カフェ』に出席した。

筆者はクボタショックの2005年、順天堂大学の病院で本邦初の『アスベスト・中皮腫外来』を開設する機会が与えられた。そして2008年、『がん哲学外来』が開設された。『医療者と患者の隙間を埋める学びの実体験』となった。